

Ⅱ 学 校 運 営

1 教育環境

(1) 地域の概況

魚沼市は、平成16年11月1日に広神村を含む6町村が合併して誕生した。

広神地区は、魚沼三山をはじめ権現堂などの秀峰が眼前に姿を現し、また、学区を横切って流れる破間川の清流が心を洗う自然環境に恵まれた地域にある。この美しい自然は、素朴で温かい人情を培い、豪雪に耐え、土に生きる粘り強い地域性を育ててきた。しかし近年、車社会（交通機関）の発達や経済情勢の変化に伴う生活圏の拡大・広域化が進み、伝統的な心情にも変化の兆しが見られるようになった。そんな中、教育活動を含む、生徒の教育環境も大きく変わろうとしている。

広神地区には、小学校2校、中学校が1校あり、従前より「村づくり地域づくりは、人づくり」を合言葉に、行政・地域・学校が一体となって、「心豊かで創造性に富む教育文化の振興」を目指している。

(2) 学校・生徒の状況

本校は、昭和46年4月1日に広瀬中学校と蕨神中学校の2校が統合して開設された中学校であり、令和3年には創立50周年を迎えた。

平成12年度より「チャレンジ広中 夢・感動」の教育目標の下、地域・保護者・学校が連携して、学校課題であり地区の課題でもある学力の向上に向け取り組んできた。

生徒は明るく純朴で、各種行事や部活動に積極的に取り組んでいる。また、課題や仕事にはまじめに取り組む。しかし、自ら計画し、実行しようとする主体性や授業時に進んで発言や発表をしようとする積極的な姿勢の育成は今後の課題である。

2 育成する資質・能力（共感力・コミュニケーション力・行動力・問題解決力）

■ 豊かな心・よりよい人間関係の育成

○人間関係力・規範意識の向上・ ○人権意識の醸成

■ 学ぶ意欲の向上・確かな学力の定着

○基礎学力の向上 ○基礎・基本の定着 ○学習習慣の形成

■ 気力や体力の向上・自律した生活の確立

○健全な心と体の育成 ○基本的生活習慣の確立

3 学校経営方針

教育目標 「チャレンジ広中 夢・感動」

重点目標 「何事にも進んで取り組み、自分の良さを伸ばそう」

4 質の高い教育活動の展開

(1) 学習指導

- ① 「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指し、「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を実感できる指導方法・教材の工夫。

- ② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、UDLを意識し、ICT機器を活用した授業づくりを進める。
- ③ 家庭学習習慣の定着に向けた効果的な支援を進める。
- ④ Web Q U、N R T、NIN0等の検査結果を活用し、実態分析により課題を明確にして支援に当たる。
- ⑤ 授業規律の徹底のために「授業3原則10項目」を各教室に掲げ、学校全体でその実現を図る。

(2) 学校行事・生徒会活動

- ① 体育祭や合唱コンクール等の学校行事において、自己有用感を育成する視点で目標を立て、異学年交流の場を設定する等、より充実した体験活動にする。
- ② 生徒会活動や委員会活動を充実させ、他者のために活動することの充実感を味わわせるとともに、話し合い活動の積み重ねにより自律的な集団づくりを行う。

(3) 道德教育

- ① ねらいに即した多様な指導方法を取り入れ、「考え・議論する道德」を推進する。
- ② 教育活動全体を通じて道德教育を推進し、その時期の学校行事や生徒会活動と関連させながら指導に当たる。

(4) 学年・学級経営

- ① 学校・学年内での情報交換を密に行い、多様性を理解し、他者を受容する集団や社会における人間関係をよりよく形成する教育活動の充実を図る。
- ② 「温かい学級集団づくり」のために、学級内の人間関係を把握し、指導と評価に生かすためにWeb Q U調査を年2回実施する。各学年部を中心に分析し、次の具体的な方策を立て実践する。
- ③ 学年部を中心に、目指す学級の姿を明確にイメージし、1年間の学級づくりのビジョンをもつ。ルールとリレーションの構築を中核にし、評価と修正を行いながら、生徒が確かな成長と満足感をもって学年末を迎えられるように学級経営を行う。
- ④ フォーサイトノートを活用し、自己管理能力の育成を図る。

(5) 教育課程・各種教育等

- ① 総合的な学習の時間を中核として、豊かな人間性や自己有用感の育成と家庭・地域との連携を確かにしたコミュニティースクールを推進し、生徒が地域に学び・地域とかわり合い、地域貢献活動に進んで取り組む態度を育む。
- ② 生徒がそれぞれの個性や持ち味を発揮しながら自立して生きていくために必要な能力や態度を育てると共に、キャリアパスポートを活用して夢や目標を明確にして、sの実現を図るキャリア教育を充実させる。
- ③ 県の防災教育プログラムを基に、自ら判断して緊急時の行動ができる力を育成する防災教育に努める。地域や保護者と連携した取組を進める。
- ④ 特別支援教育についての研修と理解を重ね、思いやりの心と人権意識を高め、の教育活動の核として推進する。

- ⑤ 日課表に朝読書を位置づけ、職員が教室で生徒を迎えられるよう、職員朝会は週 1 回とする。職員の情報共有等は、校支援システムを活用する。
- ⑥ 全校朝会与生徒朝会を月に 1 回、火曜日に設定する。学年朝会は、毎週学年毎に曜日をずらして設定し、学年委員会の活動の活性化と学年交流を進める。
- ⑦ 水曜日は 5 限とし、放課後を特別活動（生徒会活動、学年・学級活動）優先日として設定する。また、水曜日は部活動休止日とする。

5 基本的な構え

（1）目指す学校の姿

予測困難な時代によりよい活動をつくるために生徒・職員が様々なアイデアを出し合い、生徒・職員・保護者みんなが幸せな学校を目指す。

◎ 基本的な姿勢 「生徒・保護者・職員が広神学校で幸せと思える学校」

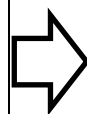
◎ 幸せになる四つの因子

- ・自己実現と成長「やってみよう」
- ・つながりと感謝「ありがとう」
- ・前向きと楽観「なんとかなる」
- ・独立と自分らしさ「ありのままに」

（2）質の高い教師集団の育成

【個人として】

- ちょっとした変化を敏感に感じ取る感性
- 多様な価値観を受け入れる柔軟性
- 挑戦し磨き合いを繰り返す回復力（レジリエンス）



教育活動の達成状況を的確に評価しながら改善を図り、生徒も職員もゆとりと実効性のある教育活動の展開に努める。

◎誰からも信頼される人間味溢れる教師（自信・謙虚・感謝・誇り）

【組織として】

やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。
話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。
やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。（山本五十六）



称賛されることに喜びを感じない者はいません。人から感謝された、人から認められたという安心感を与え、生徒の心に火を付けましょう。

◎職員の専門性を生かした研修と多様な価値観に触れる研修を通して、質の高い教職員集団を目指す。